

JR北海道の「北斗星」用24系25形、 けん引機のEF81形、DD51形をリニューアル新発売!!



「北斗星」は、国鉄の分割民営化から約1年後の青函トンネル開通に伴い、1988(昭和63)年3月ダイヤ改正より運転を始めた、上野～札幌間を結ぶ寝台特急で、多彩な客室設備を持つ各種寝台車、定員外でくつろぎのスペースを提供する「ロビーカー」、本格的ディナーを用意する食堂車など、後に続く豪華寝台列車の先駆けとなりました。同寝台特急は3往復が設定されましたが、1999(平成11)年7月の豪華寝台特急「カシオペア」の登場によって2往復となり、2015(平成27)年8月の臨時列車を最後に運転が終了しました。「北斗星」は誕生から廃止まで、JR東日本とJR北海道が共同で運行し、けん引機を含めて、その時々で変化に富んだ編成が見られました。

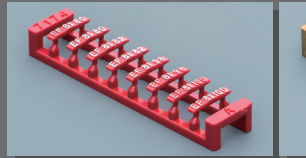


●オハネフ25形は車体を新規に製作の上、乗降用引き戸横の縦雨樋が外付けに改造された姿を再現しています。

●基本セットのオハネ25-550形、スハネ25-500形、増結セットのオハネ25-500形は、いずれも車体を新たに製作し、トイレ窓が埋められ、車体側面の点検ふたと車端部手すりの形状が変更された形状を再現しています(写真はオハネ25形)。なお、基本セットの2形式は、細い側面帯としています。



●基本セットのスシ24-500形は、箱形の大型ベンチレーターが残る503番を模しています。また、AU76・77クレーラーのファンは、基本セットのオハネ25-560形が1個タイプを、その他の各車が2個タイプで、増結セットのオハネ25-550形が1個タイプを、その他の各車が2個タイプで再現する他、細かな形状の差異も追えています。



●EF81形、DD51形ともに、付属のナンバープレートはパーツ形状を見直し、ランナーから切り離した際に、プレート周囲にランナーの一部が残らない設計としています。

トミックスでは「北斗星」誕生間もない頃から現在に至るまで、実車の変遷に合わせた製品仕様の見直しや、改良を加えつつモデルをラインナップしてきましたが、このたび、JR北海道所有で寝台の完全個室化が図られた1998(平成10)年から、北海道新幹線工事に伴う1往復化と併せ、JR東日本とJR北海道の所有車による混成運転となった、2008(平成20)年3月ダイヤ改正までの「北斗星1・2号」の24系25形をリニューアルの上、新たに発売いたします。モデルは6両基本セットと6両増結セットを揃え、両セットにより電源車を含めた12両フル編成が楽しみ頂けます。基本セットには増結セットにも対応する車体番号などの転写シートの他、カニ24形用のTNカプラー、カプラー無し台車枠、ステップパーツ、他を付属します。また、この発売に合わせて、当時、本州内のけん引機であったEF81形と、北海道内のけん引機であったDD51形もリニューアルの上、新たにリリースいたします。両モデルともに、M-13モーターを使用したフライホイール付き動力ユニットを搭載、EF81形ではプレート軸心付きの黒色車輪を採用し、ナンバープレート(EF81-80・82・98・100)とメーカーズプレート、印刷済みヘッドマーク(「北斗星・カシオペア」)を、DD51形ではナンバープレート(DD51-1137・1138・1141・1148)とメーカーズプレートに加えて、印刷済みヘッドマーク(「北斗星・カシオペア・はまなす・トワイライトエクスプレス」)が付属します。なお、2006(平成18)年頃の姿を模したDD51形は、前面デッキの湾曲した手すり中央部とステップ最下段が広がった形状の他、屋根上ベンチレーターがSG煙突の横に配置された、1000番代後期グループを新規製作で再現しています。

24系25形

(北斗星・JR北海道仕様)

EF81形

(北斗星色)

DD511000形

(JR北海道色)

- JR 24系25形特急寝台客車(北斗星・JR北海道仕様)基本セット(6両) <98835> 予価¥19,250(税込)
- JR 24系25形特急寝台客車(北斗星・JR北海道仕様)増結セット(6両) <98836> 予価¥16,500(税込)
- JR EF81形電気機関車(北斗星色) <7174> 予価¥9,240(税込) **9月発売予定**
- JR DD511000形ディーゼル機関車(JR北海道色) <2251> 予価¥9,460(税込) **10月発売予定**

10月発売予定

JR北海道商品化許諾済
JR東日本商品化許諾済